

3 参考

(1) 芝生の計画と整備

横浜市の校庭・園庭の芝生化事業では、主に部分芝生型を採用しています。

a) 部分芝生型

校庭・園庭の中央部または周辺部の一部を芝生化するものです。

部分芝生型の特徴

校庭・園庭の使い方や条件を考慮したうえで最も芝生化に適した場所を芝生化します。

工事期間や養生期間あるいは維持管理作業時など、芝生部分を使えない時でも、芝生化以外の場所を利用できる面があります。



中央部を芝生化：保育園



周辺部を芝生化：保育園

b) 全面芝生型

土ぼこりの軽減、夏季の地表面の温度低下、安全性の向上など芝生化の効果は極めて高くなります。また、面積が広いと利用も分散でき、養生のためにエリアを分割しやすくなります。

一方で、維持管理の負担、工事期間や養生期間あるいは維持管理作業時など、芝生を使えない時の影響は大きくなりますが、次のような工夫をすることで、全面芝生化を行っている施設事例もあります。

全面芝生型（およそ 1,000 m²以上）をやる場合には

人員：担当者 1 名（毎日芝生を観察する。作業計画・記録を作成する。）

作業補助者 1～2 名/回※（芝刈り、散水、草取りなど）

※職員だけではなく子どもたちの委員会活動、地域ボランティア、学校開放団体等の協力も得て行います。

所有する機材、作業内容によって増減あり。

機材：芝刈機 乗用または自走を 1～2 台、手押しを 3～5 台

スプリンクラー設備、肥料散布機を利用

専門家の訪問：1～2 回/年程度

専門家への電話相談：随時

全面芝生化を行う時には、適切な人員・機材を準備し、継続的な専門家のアドバイスを受けられるなどの条件をできるだけ満たすようにしましょう。



全面を芝生化した小学校

(2) 校庭・園庭の芝生の造成方法

横浜市の校庭・園庭の芝生化事業では、主に張芝工法の整備を導入しています。その理由として施工可能な期間が長い（1月から8月まで施工が可能。特に4～7月が最適期）、使えるまでの養生期間が短いなど、芝生を造成する方法としては、最も一般的で確実な方法であることがあげられます。

なお、一般的な校庭・園庭のダスト舗装は、そのままでは芝生の生育には向きません。砂や黒土、土壌改良材などを用いて、芝生の生育に合った土壌改良を行ってから芝を張りましょう。

芝生の整備費については面積や材料、整備方法によって変わりますが、土から入れ換えた場合には1㎡当たり¥10,000～¥20,000-となることが多いようです。

a) 張芝工法

畑から切り取った芝生を現場に並べ張り付ける工法です。

張芝工法の特徴と留意点

- 不適期の施工は避ける

秋季（9～12月）の施工は、芝生が定着する前に冬の寒さを迎えるため生存率が極端に低下するため避けましょう。

- 芝生材料（切り芝：ソッド）に左右される

芝生材料は農産物であり、鮮度によって芝生の出来上がりが大きく異なります。また、雑草や他の芝草の混入がないことも大切です。しかし、芝生材料の鮮度や混入の見極めは難しいので、信頼できる販売店や業者より購入しましょう。

- 定着するまでの散水が大切

張り付けた切り芝は乾燥しないようにすることが重要です。切り芝から根が伸びて活着するまでは毎日散水を行います。[散水:P.18]

- 使えるようになるまで

切り芝から根が伸びるころには（5～8月に張れば、およそ1か月から1か月半後）に、葉も伸び、芝刈りができるようになります。最初の芝刈りを行った後、芝生が動かないことを確認してから使い始めます。[芝刈り:P.12]
使い始めてからも、場所によってはまだ十分に根が伸びていないところもあるので、少しずつ様子を見ながら使うようにします。



ロール状になった張芝の施工状況

b) 苗植付け工法（鳥取方式）

芝生のほふく茎（横に伸び芝生を形成する茎）を等間隔に植え付け、伸ばすことで芝生を造成する工法です。用意する芝生が少量で経費が安くなりますが、芝生地を形成するためには少なくとも3カ月程度の初期管理作業と養生が必要です。

しかし、芝生の完成までを一緒に見守れるので、子どもたち、地域の愛着や連帯感が生まれやすく、完成後の維持管理の協力を得やすくなる場合もあります。

これらの特徴を十分に理解し、実施できる場合に選定する工法です。

なお、苗植付け工法で造成する場合にも、砂や黒土、土壌改良材などを用いて、芝生の生育に合った土壌改良を行いましょう。



みんなで芝植え

苗植付け工法の特徴と留意点

● 専門家の指導

効率的に芝生を造成するために、苗植付け工法の経験のある芝生の専門家による計画、施工、初期管理のアドバイスを受けることが望まれます。

● 芝生となるまでの養生期間と初期管理が必要

植付けてから芝生になるまでは、生育期間内（5～9月）で最低3か月必要です。この期間内には散水（週2回以上）、施肥（月2回以上）、芝刈り（週1回以上）が必要です。



植え付け直後の状態

● 施工可能な期間が短い

必要な初期管理期間から逆算すると、1シーズンで芝生を造成するためには3月から5月までの間に苗を植付けることが必要です。

● 苗の生産

元となるティフトン 419 があれば、植付けるための苗は補修用の苗と同じ方法で作ることが可能です。[苗による補修：P. 23]

● 初期管理の実施体制

散水、施肥、芝刈り、除草を定期的実施するための体制を職員、子ども、地域との協働で作り上げていく工夫も望まれます。

(3) 横浜市のサポート体制

横浜市では、校庭・園庭の芝生の維持管理をサポートするために、施設管理担当者向けに、定期的な講習会を開催したり、専門家による訪問指導を実施しています。（最新情報は、横浜みどりアップ計画のホームページをご覧ください。）

a) 講習会

平成 23 年度より、日産スタジアムのグリーンキーパーによる、芝生管理に関する講習会を開催しています。



講義



日産スタジアムの芝を見ながらの
屋外実習

○実績

- ・平成 23 年度 5 回
- ・平成 24 年度 4 回

b) 専門家による訪問指導

平成 24 年度より、日産スタジアムのグリーンキーパーが、実際に芝生化している校庭・園庭を訪問し、現状の診断と維持管理について指導を行っています。



芝生の診断



管理作業の指導

○実績

- ・平成 24 年度 20 か所

横浜みどリアップ計画校庭・園庭芝生管理マニュアル

発行：横浜市環境創造局みどリアップ推進課

編集受託：（株）緑の風景計画

監修：（公財）横浜市体育協会

制作・著作：横浜市環境創造局みどリアップ推進課

平成 25 年 5 月初版発行

この冊子は、横浜市内の校庭・園庭芝生化を推進するために作成されたものです。他の目的で使用する場合には、発行者の承認を得てください。

横浜市環境創造局みどリアップ推進課

TEL. 045-671-3447 FAX. 045-224-6627

E-mail ks-ryoka@city.yokohama.jp

